



M32R LIVE

Digital Console for Live and Studio with 40 Input Channels, 16 Midas PRO Microphone Preamplifiers and 25 Mix Buses and Live Multitrack Recording

JP

JP 安全にお使いいただくために

**注意**

感電の恐れがありますので、カバーやその他の部品を取り外したり、開けたりしないでください。高品質なプロ用スピーカーケーブル (1/4" TS 標準ケーブルおよびツイスト ロッキング プラグケーブル) を使用してください。

**注意**

火事および感電の危険を防ぐため、本装置を水分や湿気のあるところには設置しないで下さい。装置には決して水分がかからないように注意し、花瓶など水分を含んだものは、装置の上には置かないようにしてください。

**注意**

このマークが表示されている箇所には、内部に高圧電流が生じています。手を触れると感電の恐れがあります。

**注意**

取り扱いとお手入れの方法についての重要な説明が付属の取扱説明書に記載されています。ご使用前に良くお読みください。

**注意**

1. 取扱説明書を通してご覧ください。
2. 取扱説明書を大切に保管してください。
3. 警告に従ってください。
4. 指示に従ってください。
5. 本機を水の近くで使用しないでください。
6. お手入れの際は常に乾燥した布巾を使用してください。
7. 本機は、取扱説明書の指示に従い、適切な換気を妨げない場所に設置してください。取扱説明書に従って設置してください。
8. 本機は、電気ヒーターや温風機器、ストーブ、調理台やアンプといった熱源から離して設置してください。

9. 二極式プラグおよびアースタイプ (三芯) プラグの安全ピンは取り外さないでください。二極式プラグにはピンが二本ついており、そのうち一本はもう一方よりも幅が広がっています。アースタイプの三芯プラグには二本のピンに加えてアース用のピンが一本ついています。これらの幅の広いピン、およびアースピンは、安全のためのものです。備え付けのプラグが、お使いのコンセントの形状と異なる場合は、電気技師に相談してコンセントの交換をして下さい。

10. 電源コードを踏みつけたり、挟んだりしないようご注意ください。電源コードやプラグ、コンセント及び製品との接続には十分にご注意ください。

11. すべての装置の接地 (アース) が確保されていることを確認して下さい。

12. 電源タップや電源プラグは電源遮断機として利用されている場合には、これが直ぐに操作できるよう手元に設置して下さい。

13. 付属品は本機製造元が指定したもののみをお使いください。



14. カートスタンド、三脚、ブラケット、テーブルなどは、本機製造元が指定したもの、もしくは本機の付属品となるもののみをお使いください。カート

を使用しての運搬の際は、器具の落下による怪我に十分ご注意ください。

15. 雷雨の場合、もしくは長期間ご使用にならない場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。

16. 故障の際は当社指定のサービス技術者にお問い合わせください。電源コードもしくはプラグの損傷、液体の装置内への浸入、装置の上に物が落下した場合、雨や湿気に装置が晒されてしまった場合、正常に作動しない場合、もしくは装置を地面に落下させてしまった場合など、いかなる形であれ装置に損傷が加わった場合は、装置の修理・点検を受けてください。



17. 本製品に電源コードが付属されている場合、付属の電源コードは本製品以外ではご使用いたしません。電源コードは必ず本製品に付属された電源コードのみご使用ください。

18. ブックケースなどのような、閉じたスペースには設置しないでください。

19. 本機の上に点火した蝋燭などの裸火を置かないでください。

20. 電池廃棄の際には、環境へのご配慮をお願いします。電池は、かならず電池回収場所に廃棄してください。

21. 本装置は 45°C 以下の温帯気候でご使用ください。

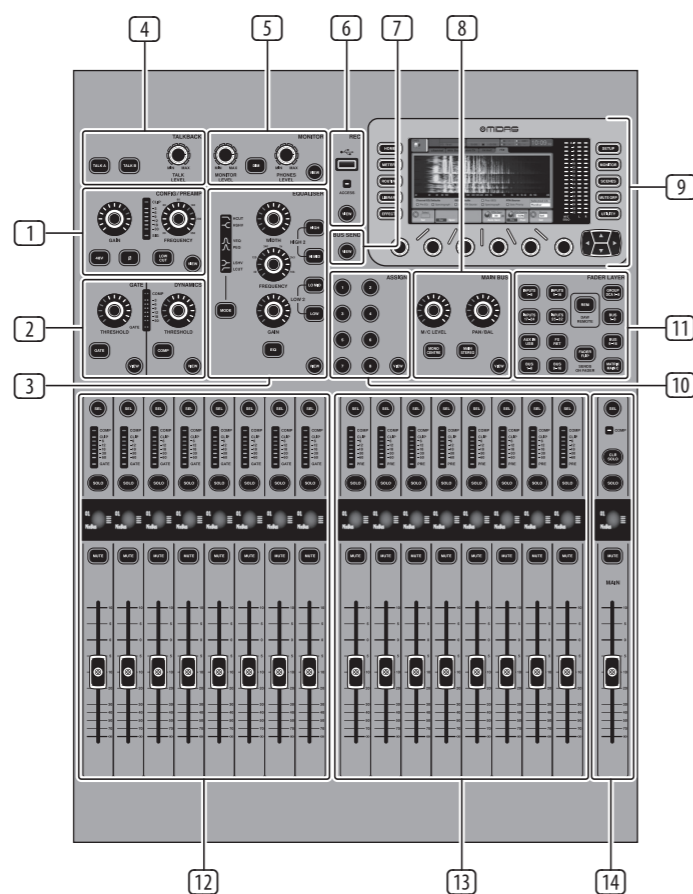
法的放棄

ここに含まれる記述、写真、意見の全体または一部に依拠して、いかなる人が損害を生じさせた場合にも、Music Tribe は一切の賠償責任を負いません。技術仕様、外観およびその他の情報は予告なく変更になる場合があります。商標はすべて、それぞれの所有者に帰属します。Midas、Klark Teknik、Lab Gruppen、Lake、Tannoy、Turbosound、TC Electronic、TC Helicon、Behringer、Bugera、Aston Microphones および Coolaudio は Music Tribe Global Brands Ltd. の商標または登録商標です。© Music Tribe Global Brands Ltd. 2023 無断転用禁止。

限定保証

適用される保証条件と Music Tribe の限定保証に関する概要については、オンライン上 community.musictribe.com/pages/support#warranty にて詳細をご確認ください。

1. コントロールサーフェス



- ① **CONFIG/PREAMP-GAIN** ロータリーコントロールを使用して、選択したチャンネルのプリアンプゲインを調整します。**48V** ボタンを押してコンデンサーマイクで使用するファンタム電源を適用し、**Ø** ボタンを押してチャンネルの位相を反転させます。LED メーターは選択したチャンネルのレベルを表示します。**LOW CUT** ボタンを押して、目的のハイパス周波数を選択して、不要な低域を削除します。**VIEW** ボタンを押して、メインディスプレイのより詳細なパラメータにアクセスします。
- ② **ゲート / ダイナミクス - GATE** ボタンを押してノイズゲートをオンにし、それに応じてしきい値を調整します。**COMP** ボタンを押してコンプレッサーを作動させ、それに応じてしきい値を調整します。LCD メーターの信号レベルが選択したゲートしきい値を下回ると、ノイズゲートはチャンネルを無音にします。信号レベルが選択したダイナミクスしきい値に達すると、ピークが圧縮されます。**VIEW** ボタンを押して、メインディスプレイのより詳細なパラメータにアクセスします。
- ③ **イコライザ - EQ** ボタンを押して、このセクションを有効にします。**LOW, LO MID, HI MID, HIGH** ボタンで 4 つの周波数帯域の 1 つを選択します。**MODE** ボタンを押して、使用可能な EQ のタイプを切り替えます。**GAIN** ロータリーコントロールで選択した周波数をブーストまたはカットします。**FREQUENCY** ロータリーコントロールで調整する特定の周波数を選択し、**WIDTH** ロータリーコントロールで選択した周波数の帯域幅を調整します。**VIEW** ボタンを押して、メインディスプレイのより詳細なパラメータにアクセスします。
- ④ **トークバック - EXTMIC** ソケットを介して標準の XLR ケーブルを介してトークバックマイクを接続します。**TALKLEVEL** ロータリーコントロールでトークバックマイクのレベルを調整します。**TALK A / TALK B** ボタンでトークバック信号の宛先を選択します。**VIEW** ボタンを押して、A と B のトークバックルーティングを編集します。
- ⑤ **モニター - MONITORLEVEL** ロータリーコントロールでモニター出力のレベルを調整します。**PHONESLEVEL** ロータリーコントロールでヘッドホン出力のレベルを調整します。**MONO** ボタンを押して、オーディオをモノラルでモニターします。**DIM** ボタンを押して、モニターの音量を下げます。**VIEW** ボタンを押して、他のすべてのモニター関連機能とともに減衰量を調整します。
- ⑥ **レコーダー** - 外部メモリスティックを接続して、ファームウェアアップデートのインストール、ショーデータのロードと保存、およびパフォーマンスの記録を行います。**VIEW** ボタンを押して、メインディスプレイのより詳細なレコーダーパラメータにアクセスします。
- ⑦ **バス送信** - このボタンを押すと、メインディスプレイの詳細なパラメータにアクセスできます。4 つのバンクの 1 つを選択し、メインディスプレイの下にある対応するロータリーコントロールの 1 つを選択して、バス送度をすばやく調整します。

- ⑧ **メインバス - MONOCENTER** または **MAINSTEREO** ボタンを押して、チャンネルをメインのモノラルまたはステレオバスに割り当てます。**MAIN STEREO** (ステレオバス) を選択すると、**PAN / BAL** は左から右の位置に調整されます。**M / C LEVEL** ロータリーコントロールを使用して、モノバスへの全体的なセンドレベルを調整します。**VIEW** ボタンを押して、メインディスプレイのより詳細なパラメータにアクセスします。
- ⑨ **メインディスプレイ** - M32R のコントロールの大部分は、メインディスプレイを介して編集および監視できます。コントロールパネルのいずれかの機能で **VIEW** ボタンを押すと、ここでそれらを表示できます。メインディスプレイは、60 以上の仮想効果にアクセスするためにも使用されます。セクション 3 を参照してください。**メインディスプレイ**。
- ⑩ **割当** - 4 つのロータリーコントロールをさまざまなパラメータに割り当てて、一般的に使用される機能にすぐにアクセスできるようにします。LCD ディスプレイは、カスタムコントロールのアクティベーターの割り当てへのクイックリファレンスを提供します。8 つのカスタム **ASSIGN** ボタン (5~12 の番号) のそれぞれをさまざまなパラメータに割り当てて、一般的に使用される機能に即座にアクセスできるようにします。**SET** ボタンの 1 つを押して、カスタム割り当て可能なコントロールの 3 つのレイヤーの 1 つをアクティブにします。このトピックの詳細については、ユーザーマニュアルを参照してください。

- ⑪ **レイヤーセレクト** - 次のボタンのいずれかを押すと、適切なチャンネルの対応するレイヤーが選択されます。
- **入力 1-8, 9-16, 17-24, 25-36 - ROUTING / HOME** ページで割り当てられた 8 つのチャンネルの 1 番目、2 番目、3 番目、4 番目のブロック
 - **FX RET** - エフェクトリターンのレベルを調整できます。
 - **AUX 入力 / USB** - 6 チャンネルと USB レコーダーの 5 番目のブロック、および 8 チャンネル FX リターン (1L ... 4R)

- **バス 1-8 & 9-16** - これにより、16 個のミックスバスマスターのレベルを調整できます。これは、バスマスターを DCA グループの割り当てに含める場合、またはバスをマトリックス 1~6 にミックスする場合に便利です。
- **レム - DAW** リモートボタン-このボタンを押すと、グループ/バスフェーダーセクションコントロールを使用してデジタルオーディオワークステーションソフトウェアのリモートコントロールが有効になります。このセクションでは、DAW との HUI または Mackie Control Universal 通信をエミュレートできます
- **フェーダーフリップ** - フェーダーボタンで送信-を押して、M32R の Sends on Fader 機能をアクティブにします。詳細については、クイックリファレンス (下記) またはユーザーマニュアルを参照してください。

上記のボタンのいずれかを押して、入力チャンネルバンクを上記の 4 つのレイヤーのいずれかに切り替えます。ボタンが点灯して、アクティブなレイヤーを示します。

- ⑫ **入力チャンネル** - コンソールの[入力チャンネル]セクションには、8 つの個別の入力チャンネルストリップがあります。ストリップは、コンソールの 4 つの別々の入力レイヤーを表しており、それぞれに **LAYERSELECT** セクションのボタンの 1 つを押すことでアクセスできます。

すべてのチャンネルの上部に **SEL** (選択) ボタンがあります。このボタンは、すべてのチャンネル関連パラメータを含む、ユーザーのインターフェイスのコントロールフォーカスをそのチャンネルに向けるために使用されます。常に 1 つのチャンネルが選択されています。

LED ディスプレイには、そのチャンネルを介した現在のオーディオ信号レベルが表示されます。

SOLO ボタンは、そのチャンネルを監視するためにオーディオ信号を分離します。

LCD Scribble Strip (メインディスプレイから編集可能) には、現在のチャンネル割り当てが表示されます。

MUTE ボタンは、そのチャンネルのオーディオをミュートします。

- ⑬ **グループ/バスチャンネル** - このセクションでは、次のレイヤーのいずれかに割り当てられた 8 つのチャンネルストリップを提供します。

- **グループ DCA1-8** - 8 つの DCA (デジタル制御増幅器) グループ
- **バス 1-8** - ミックスバスマスター 1~8
- **バス 9-16** - ミックスバスマスター 9-16
- **MTX 1-6 / メイン C** - マトリックス出力 1~6 およびメインセンター (モノラル) バス。

SEL, SOLO & MUTE ボタン、LED ディスプレイ、および LCD スcribble Strip はすべて、入力チャンネルの場合と同じように動作します。

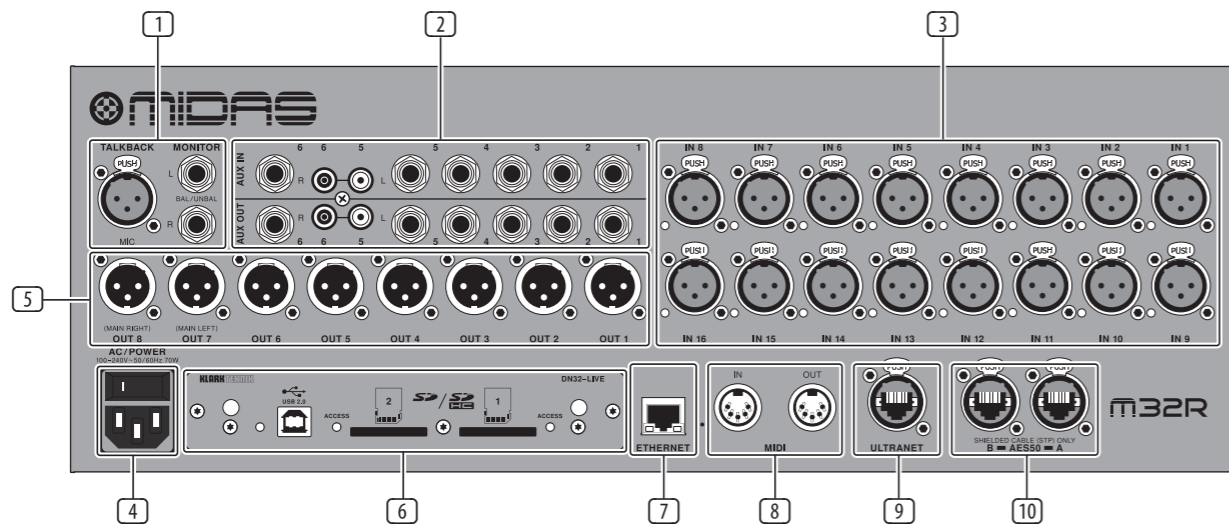
- ⑭ **メインチャンネル** - これは、マスター出力ステレオミックスバスを制御します。

SEL, SOLO & MUTE ボタン、および LCD スcribble Strip はすべて、入力チャンネルの場合と同じように動作します。

CLR SOLO ボタンは、他のチャンネルからソロ機能を削除します。

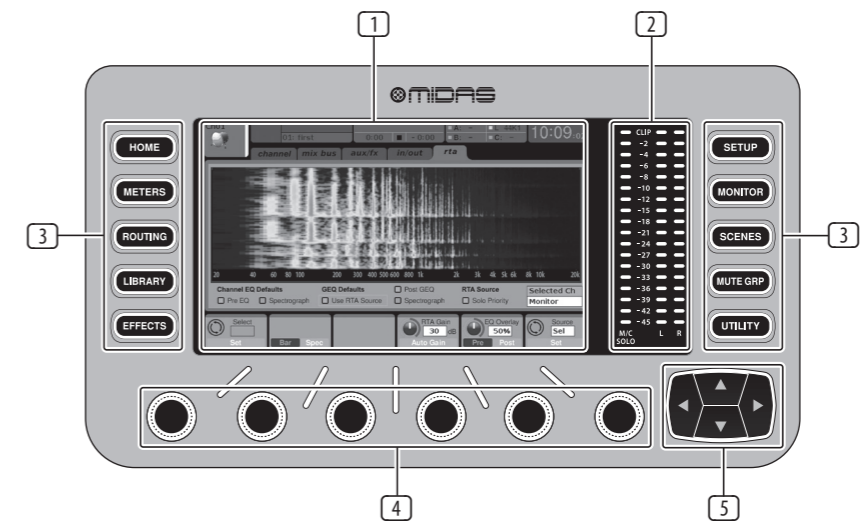
これらの各トピックの詳細については、ユーザーマニュアルを参照してください。

2. 後面パネル



- ① **モニター/ 制御室の出力** - XLR または 1/4" ケーブルを使用してスタジオモニターのペアを接続します。12 V/5 W ランプ接続も含まれます。
 - ② **AUX 入力/出力** - 1/4" または RCA ケーブルを介して外部機器と接続します。
 - ③ **入力 1~16** - XLR ケーブルを介してオーディオソース (マイクやラインレベルソースなど) を接続します。
 - ④ **パワー** - IEC メインソケットと ON/OFF スイッチ。
 - ⑤ **出力 1~8** - XLR ケーブルを使用してアナログオーディオを外部機器に送信します。デフォルトでは、出力 15 と 16 はメインステレオバス信号を伝送します。
 - ⑥ **DN32** - ライブインターフェイスカード - USB 2.0 を介してコンピューターとの間で最大 32 チャンネルのオーディオを送信し、SD/SDHC カードに最大 32 チャンネルを録音します。
 - ⑦ **リモートコントロール入力** - イーサネットケーブルを介してリモートコントロール用の PC に接続します。
 - ⑧ **MIDI 入力 / 出力** - 5ピン DIN ケーブルを介して MIDI コマンドを送受信します。
 - ⑨ **ウルトラネット** - イーサネットケーブルを介して、Behringer P16 などの個人用監視システムに接続します。
 - ⑩ **AES50 A / B** - イーサネットケーブルを介して最大 96 チャンネルを送受信します。
- これらの各トピックの詳細については、ユーザーマニュアルを参照してください。

3. メインディスプレイ



- ① **表示画面** - このセクションのコントロールは、カラー画面に含まれるグラフィック要素をナビゲートおよび制御するために、カラー画面と組み合わせて使用されます。
画面の隣接するコントロールに対応する専用のロータリーコントロールとカーソルボタンを含めることで、ユーザーはカラー画面のすべての要素をすばやくナビゲートして制御できます。
カラー画面には、コンソールの操作を視覚的にフィードバックするさまざまなディスプレイが含まれており、ユーザーは専用のハードウェアコントロールでは提供されないさまざまな調整を行うことができます。
- ② **メイン/ソロメーター** - このトリプル 24セグメントメーターは、メインバス、およびコンソールのメインセンターバスまたはソロバスから出力されたオーディオ信号レベルを表示します。
- ③ **画面選択ボタン** - これらの 8 つの照らされたボタンにより、ユーザーはコンソールのさまざまなセクションに対応する 8 つのマスター画面のいずれかにすぐに移動できます。ナビゲートできるセクションは次のとおりです。
 - **ホームホーム** - HOME 画面には、選択した入力または出力チャンネルの概要が表示され、専用のトップパネルコントロールでは利用できないさまざまな調整が提供されます。

ホーム画面には、次の個別のタブがあります。

ホーム: 選択した入力または出力チャンネルの一般的な信号パス。

config: チャンネルの信号の送信元/宛先、挿入ポイントの構成、およびその他の設定を選択できます。

ゲート: 専用のトップパネルコントロールが提供する以上のチャンネルゲート効果を制御および表示します。

dyn: ダイナミクス専用のトップパネルコントロールが提供するものを越えて、チャンネルダイナミクスエフェクト (コンプレッサー) を制御および表示します。

eq: 専用のトップパネルコントロールが提供する以上のチャンネル EQ 効果を制御および表示します。

送信: 送信メータリングや送信ミューティングなど、チャンネル送信の制御と表示。

main: 選択したチャンネルの出力を制御および表示します。

- **メーター** - メーター画面には、さまざまな信号パスのレベルメーターのさまざまなグループが表示され、レベル調整が必要なチャンネルがあるかどうかをすばやく確認するのに役立ちます。メータリング表示用に調整するパラメータがないため、どのメータリング画面にも、通常は 6 つのロータリーコン

トロールによって調整される「画面の下部」コントロールが含まれていません。

METER 画面には、チャンネル、ミックスバス、aux/fx、in/out、rta の各信号パスのレベルメーターが含まれる個別の画面タブが含まれています。

- **ルーティング** - ROUTING 画面では、すべての信号パッチが実行され、ユーザーはコンソールの背面パネルにある物理的な入力 / 出力コネクタとの間で内部信号パスをルーティングできます。

ルーティング画面には、次の個別のタブが含まれています。

ホーム: コンソールの 32 の入力チャンネルと Aux 入力への物理入力のパッチを許可します。

out 1-16: コンソールの 16 個のリアパネル XLR 出力への内部信号パスのパッチを許可します。

aux out: コンソールの 6 つのリアパネル 1/4" / RCA 補助出力への内部信号パスのパッチを可能にします。

p16 out: コンソールの 16 チャンネル P16 ULTRANET 出力の 16 出力への内部信号パスのパッチを許可します。

力への内部信号パスのパッチを適用できます。

aes50-a: リアパネル AES50-A 出力の 48 出力への内部信号パスのパッチを可能にします。

aes50-b: リアパネルの AES50-B 出力の 48 出力への内部信号パスのパッチを可能にします。

xlr out: ユーザーは、ローカル入力、AES ストリーム、または拡張カードのいずれかから、コンソールの背面にある XLR 出力を 4 つのブロックで構成できます。

- **図書館** - LIBRARY 画面では、チャンネル入力、エフェクトプロセッサ、ルーティングシナリオで一般的に使用されるセットアップをロードおよび保存できます。

LIBRARY 画面には、次のタブがあります。

チャンネル: このタブを使用すると、ダイナミクスやイコライゼーションなど、チャンネル処理の一般的に使用される組み合わせをロードおよび保存できます。

エフェクト: このタブでは、ユーザーは一般的に使用されるエフェクトプロセッサプリセットをロードおよび保存できます。

ルーティング: このタブでは、ユーザーは一般的に使用される信号ルーティングをロードおよび保存できます。

- **効果** - EFFECTS 画面は、8 つのエフェクトプロセッサのさまざまな側面を制御します。この画面では、ユーザーは 8 つの内部エフェクトプロセッサの特定のタイプのエフェクトを選択し、入力パスと出力パスを構成し、レベルを監視し、さまざまなエフェクトパラメーターを調整できます。

[効果]画面には、次の個別のタブが含まれています。

ホーム: ホーム画面には、仮想エフェクトラックの概要が表示され、8 つのスロットのそれぞれに挿入されたエフェクトが表示され、各スロットの入力/出力パスと I/O 信号レベルが表示されます。

fx1-8: これらの 8 つの複製画面には、8 つの個別のエフェクトプロセッサに関連するすべてのデータが表示され、ユーザーは選択したエフェクトのすべてのパラメーターを調整できます。

- **セットアップ** - セットアップ画面は、ディスプレイの調整、サンプルレートと同期、ユーザー設定、ネットワーク構成など、コンソールのグローバルな高レベル機能のコントロールを提供します。

セットアップ画面には、次の個別のタブが含まれています。

グローバル: この画面では、コンソールの動作方法に関するさまざまなグローバル設定を調整できます。

config: この画面では、サンプルレートと同期の調整、および信号パスパスの高レベル設定の構成を提供します。

リモート: この画面には、接続されたコンピューター上のさまざまな DAW レコーディングソフトウェアのコントロールサーフェスとしてコンソールを設定するためのさまざまなコントロールがあります。また、MIDI Rx/Tx プリファレンスを構成します。

ネットワーク: この画面には、コンソールを標準のイーサネットネットワークに接続するためのさまざまなコントロールがあります。(IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ。)

スクリブルストリップ: この画面には、コンソールの LCD スクリブルストリップをさまざまにカスタマイズするためのコントロールがあります。

ブリアンプ: AES50 を介して接続されたリモートステージボックス (DL16 など) からのセットアップを含む、ローカルマイク入力 (背面の XLR) とファンタム電源のアナログゲインを表示します。

カード: この画面では、インストールされているインターフェイスカードの入出力構成を選択します。

- **モニター** - MONITOR セクションの機能をメインディスプレイに表示します。

シーン-このセクションは、コンソールでオートメーションシーンを保存および呼び出すために使用され、後でさまざまな構成を呼び出すことができます。このトピックの詳細については、ユーザーマニュアルを参照してください

- **ミュート GRP** - MUTE GRP 画面では、コンソールの 6 つのミュートグループをすばやく割り当てて制御でき、2 つの個別の機能を提供します。

1. ミュートグループにチャンネルを割り当てるプロセス中に、アクティブな画面をミュートします。これにより、ライブパフォーマンス中の割り当てプロセス中に誤ってチャンネルがミュートされることがなくなります。

2. コンソールの下部にある専用のミュートグループボタンに加えて、グループをミュート / ミュート解除するための追加のインターフェイスを提供します。

- **実用性** - UTILITY 画面は、特定の瞬間に表示される可能性のある他の画面と連携して機能するように設計された補足画面です。UTILITY 画面は、それ自体では表示されません。常に別の画面のコンテキストで存在し、通常、コピー、貼り付け、ライブラリまたはカスタマイズ機能を起動します。

- ④ **ロータリーコントロール** - これらの 6 つのロータリーコントロールは、それらの真上にあるさまざまな要素を調整するために使用されます。6 つのコントロールのそれぞれを内側に押すと、ボタンを押す機能がアクティブになります。この機能は、ロータリーコントロールによって最適に調整される可変状態とは対照的に、ボタンによって最適に制御されるデュアルオン / オフステータスを持つ要素を制御する場合に役立ちます。

- ⑤ **上 / 下 / 左 / 右のナビゲーションコントロール** - LEFT および RIGHT コントロールを使用すると、画面セットに含まれるさまざまなページ間を左右に移動できます。グラフィカルなタブ表示により、現在表示しているページが表示されます。一部の画面には、下にある 6 つのロータリーコントロールで調整できるよりも多くのパラメーターがあります。このような場合は、上ボタンと下ボタンを使用して、画面ページに含まれる追加のレイヤーをナビゲートします。LEFT ボタンと RIGHT ボタンは、確認ポップアップを確認またはキャンセルするために使用されることがあります。

これらの各トピックの詳細については、ユーザーマニュアルを参照してください。

4. クイックリファレンスセクション

チャンネルストリップ LCD の編集

1. 変更したいチャンネルの選択ボタンを押しながら、UTILITY を押します。
2. 画面の下にあるロータリーコントロールを使用して、パラメーターを調整します。
3. セットアップメニューには専用のスクリブルストリップタブもあります。
4. この画面を見ながらチャンネルを選択して編集します。

パスの使用

パスのセットアップ:

M32R は、各チャンネルのパスセンドを個別にプリフェーダーまたはポストフェーダーにすることができるため、非常に柔軟なパスを提供します (パスのペアで選択可能)。チャンネルを選択し、チャンネルストリップの[パス送信]セクションで[表示]を押します。

画面の横にある下ナビゲーションボタンを押して、前 / 後 / サブグループのオプションを表示します。

パスをグローバルに設定するには、その SEL ボタンを押してから、チャンネルストリップの **CONFIG/PREAMP** セクションで **VIEW** を押します。3 番目のロータリーコントロールを使用して構成を変更します。これは、このパスへのすべてのチャンネル送信に影響します。

注: ミックスバスは、奇数と偶数の隣接するペアでリンクして、ステレオミックスバスを形成できます。バスをリンクするには、バスを 1 つ選択し、チャンネルストリップの **CONFIG/PREAMP** セクションの近くにある VIEW ボタンを押します。最初のロータリーコントロールを押してリンクします。これらのバスに送信する場合、奇数の BUS SEND ロータリーコントロールが送信レベルを調整し、偶数の BUS SEND ロータリーコントロールがパン/パランスを調整します。

マトリックスミックス

マトリックスミックスは、メイン LR およびセンター / モノバスだけでなく、任意のミックスバスから供給することができます。

マトリックスに送信するには、最初に送信するバスの上にある SEL ボタンを押します。チャンネルストリップの BUS SENDS セクションにある 4 つのロータリーコントロールを使用します。ロータリーコントロール 1-4 はマトリックス 1-4 に送信されます。5-8 ボタンを押して、最初の 2 つのロータリーコントロールを使用して Matrix 5-6 に送信します。**VIEW** ボタンを押すと、選択したバスの 6 つの Matrix センドの詳細が表示されます。

出力フェーダーのレイヤー 4 を使用してマトリックスミックスにアクセスします。6 バンドパラメトリック EQ とクロスオーバーのダイナミクスを含むチャンネルストリップにアクセスするには、マトリックスミックスを選択します。

ステレオマトリックスの場合は、マトリックスを選択し、チャンネルストリップの **CONFIG/PREAMP** セクションにある **VIEW** ボタンを押します。画面の近くにある最初のロータリーコントロールを押してリンクし、ステレオペアを形成します。

ステレオパンニングは、上記のバスの使用で説明されているように、BUS SEND ロータリーコントロールでも処理されることに注意してください。

DCA グループの使用

DCA グループを使用して、1 つのフェーダーで複数のチャンネルの音量を制御します。

1. DCA にチャンネルを割り当てるには、最初に **GROUP DCA1-8** レイヤーが選択されていることを確認してください。
2. 編集する DCA グループの選択ボタンを押し続けます。
3. 追加または削除するチャンネルの選択ボタンを同時に押します。
4. チャンネルが割り当てられている場合、DCA の **SEL** ボタンを押すとその選択ボタンが点灯します。

フェーダーで送信

Sends on Faders を使用するには、コンソールの中央近くにある **Sends on Faders** ボタンを押します。

Sends On Faders を 2 つの異なる方法のいずれかで使用できるようになりました。

1. 8 つの入力フェーダーの使用: 右側の出力フェーダーセクションでバスを選択すると、左側の入力フェーダーは、選択したバスに送信されているミックスを反映します。
2. 8 つのバスフェーダーを使用する: 左側の入力セクションにある入力チャンネルの選択ボタンを押します。コンソールの右側にあるバスフェーダーを上げて、チャンネルをそのバスに送信します。

グループをミュート

1. ミュートグループからチャンネルを割り当て / 削除するには、ミュート GRP 画面選択ボタンを押します。**MUTE GRP** ボタンが点灯し、6 つのミュートグループが 6 つのロータリーコントロールに表示されると、編集モードになっていることがわかります。
2. 次に、使用する 6 つのミュートグループボタンの 1 つを押したまま、そのミュートグループに追加または削除するチャンネルの **SEL** ボタンを同時に押します。
3. 完了したら、**MUTE GRP** ボタンをもう一度押して、M32R の専用のミュートグループボタンを再度アクティブにします。
4. ミュートグループを使用する準備が整いました。

割り当て可能なコントロール

1. M32R は、ユーザーが割り当て可能な 3 層のロータリーコントロールとボタンを備えています。それらを割り当てるには、ASSIGN セクションの **VIEW** ボタンを押します。
2. 左右のナビゲーションボタンを使用して、コントロールのセットまたはレイヤーを選択します。これらは、コンソールの **SET A, B**、および **C** ボタンに対応します。

- ロータリーコントロールを使用して、コントロールを選択し、その機能を選択します。

注: LCD スクリブルストリップは、それが設定されているコントロールを示すように変更されます。

エフェクトラック

- 画面近くの **EFFECTS** ボタンを押すと、8つのステレオエフェクトプロセッサの概要が表示されます。エフェクトスロット 1~4 はセンドタイプのエフェクト用で、スロット 5~8 はインサートタイプのエフェクト用であることに注意してください。
- エフェクトを編集するには、6 番目のロータリーコントロールを使用してエフェクトスロットを選択します。
- エフェクトスロットを選択した状態で、5 番目のロータリーコントロールを使用してそのスロットにあるエフェクトを変更し、コントロールを押して確認します。6 番目のロータリーコントロールを押して、そのエフェクトのパラメータを編集します。
- 60 を超えるエフェクトには、リバーブ、ディレイ、コーラス、フランジャー、リミッター、31 バンド GEQ などがあります。完全なリストと機能については、ユーザーマニュアルを参照してください。

5. ファームウェアの更新と USB スティックの記録

ファームウェアを更新するには:

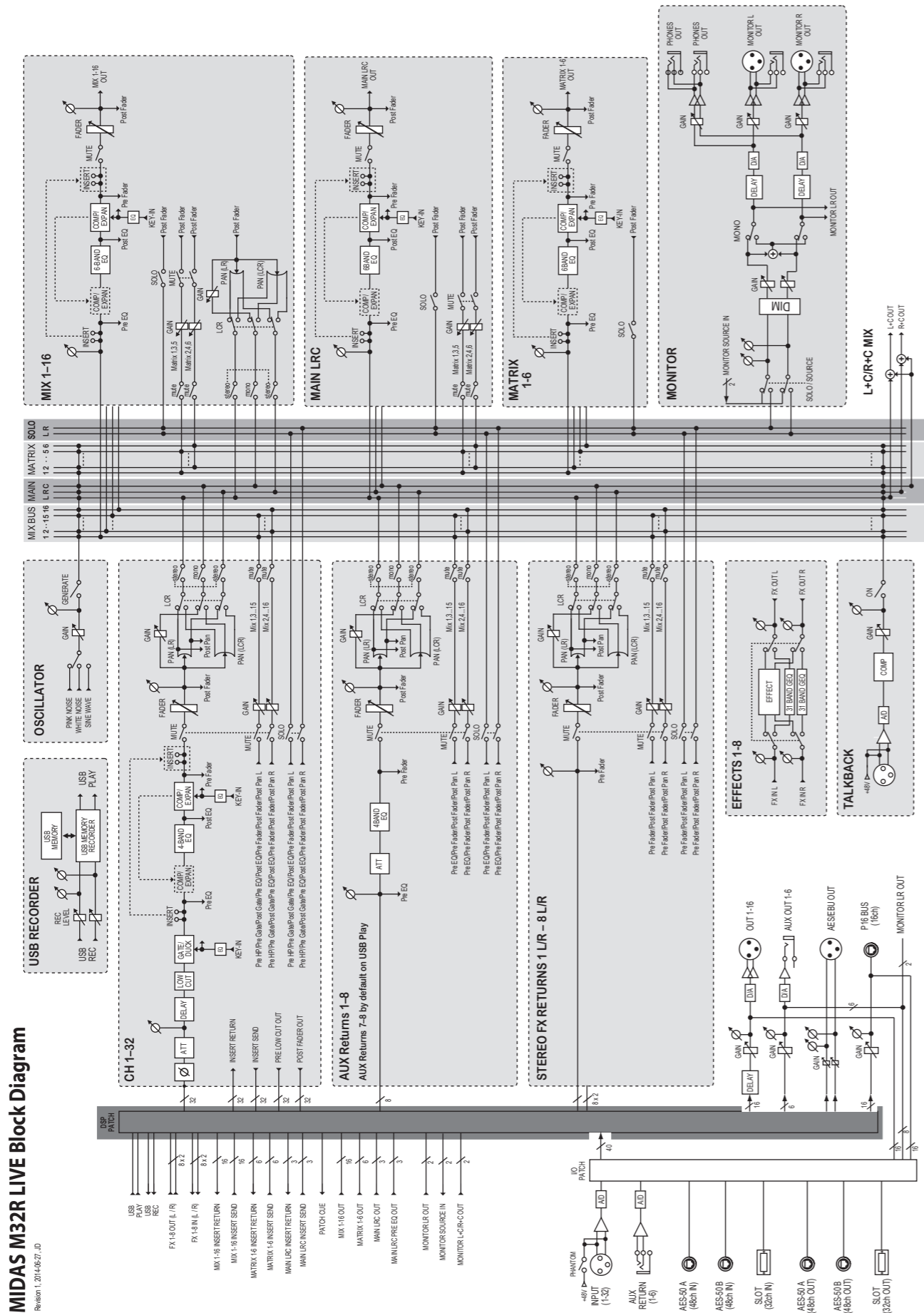
- 新しいコンソールファームウェアを M32R 製品ページから USB メモリスティックのルートレベルにダウンロードします。
- RECORDER** セクションの **VIEW** ボタンを押したまま、コンソールの電源を入れて更新モードに入ります。
- USB メモリスティックをトップパネルの USB コネクタに差し込みます。
- M32R は、USB ドライブの準備が整うのを待ってから、完全に自動化されたファームウェアアップデートを実行します。
- USB ドライブの準備ができていない場合、更新はできません。以前のファームウェアを起動するには、コンソールをオフ / オンに切り替えることをお勧めします。
- 更新プロセスには、通常の起動シーケンスよりも 2~3 分長くかかります。

USB スティックに記録するには:

- USB スティックを **RECORDER** セクションのポートに挿入し、**VIEW** ボタンを押します。
- 2 ページ目を使用して、レコーダーを構成します。
- 画面の下にある 5 番目のロータリーコントロールを押して、録音を開始します。
- 最初のロータリーコントロールを使用して停止します。スティックを取り外す前に、**ACCESS** ライトが消えるのを待ちます。

注: スティックは FAT ファイルシステム用にフォーマットする必要があります。最大記録時間は、ファイルごとに約 3 時間で、ファイルサイズの制限は 2GB です。録音は、コンソールのサンプルレートに応じて、16 ビット、44.1 kHz、または 48 kHz で行われます。

6. ブロック図



MIDAS M32R LIVE Block Diagram
Revision 1.2014-05-27_JD

7. 技術仕様

処理	
入力処理チャンネル	32 入力チャンネル、8 補助チャンネル、8 FX リターンチャンネル
出力処理チャンネル	Aug-16
16 個の Aux バス、6 個のマトリックス、メイン LRC	100
内部エフェクトエンジン (トゥールーステレオ / モノラル)	Aug-16
内部ショーの自動化 (構造化されたキュー / スニペット)	500/100
内部トータルリコールシーン (プリアンプとフェーダーを含む)	100
信号処理	
A/D 変換 (8 チャンネル、96 kHz 対応)	24 ビット、114 dB ダイナミックレンジ、A 加重
D/A 変換 (ステレオ、96 kHz 対応)	24 ビット、120 dB ダイナミックレンジ、A 加重
I/O レイテンシー (コンソール入力から出力)	0.8 ミリ秒
ネットワーク遅延 (ステージボックス入力>コンソール>ステージボックス出力)	1.1 ミリ秒
コネクタ	
Midas PRO シリーズマイクプリアンプ (XLR)	16
トークバックマイク入力 (XLR)	1
RCA 入力/出力	02-Feb
XLR 出力	8
モニタリング出力 (XLR 1/4" TRS バランス)	02-Feb
補助入力/出力 (1/4" TRS バランス)	6/6
電話出力 (1/4 TRS)	1 (ステレオ)
AES50 ポート (Klark Teknik SuperMAC)	2
拡張カードインターフェイス	32 チャンネルオーディオ入力 / 出力
ULTRANET P-16 コネクタ (電源なし)	1
MIDI 入力/出力	01-Jan
USB タイプ A (オーディオおよびデータのインポート / エクスポート)	1
USB タイプ B、背面パネル、リモコン用	1
イーサネット、RJ45、背面パネル、リモコン用	1
マイク入力特性	
設計	Midas PRO シリーズ
THD + N (0 dB ゲイン、0 dBu 出力)	<0.01% 非加重
THD + N (+40 dB ゲイン、0 dBu ~ +20 dBu 出力)	<0.03% 重み付けなし
入力インピーダンス (不平衡/平衡)	10 kΩ / 10 kΩ
ノンクリップ最大入力レベル	+23 dBu
ファンタム電源 (入力ごとに切り替え可能)	+48 V
等価入力ノイズ @ +45 dB ゲイン (150 Ω ソース)	-125 dBu 22 Hz~22 kHz、重み付けなし
CMRR @ ユニティゲイン (標準)	> 70 dB
CMRR @ 40 dB ゲイン (標準)	> 90 dB
入出力特性	
周波数応答 @ 48 kHz サンプルレート	0 dB~-1 dB 20 Hz - 20 kHz
ダイナミックレンジ、アナログ入力からアナログ出力	106 dB 22 Hz-22 kHz、重み付けなし
A/D ダイナミックレンジ、プリアンプおよびコンバーター (標準)	109 dB 22 Hz-22 kHz、重み付けなし
D/A ダイナミックレンジ、コンバーター、出力 (標準)	109 dB 22 Hz-22 kHz、重み付けなし
クロストーク除去 @ 1 kHz、隣接チャンネル	100 dB
出力レベル、XLR コネクタ (公称 / 最大)	+4 dBu / +21 dBu
出力インピーダンス、XLR コネクタ (アンバランス / バランス)	50 Ω / 50 Ω
入力インピーダンス、TRS コネクタ (不平衡/平衡)	20 kΩ / 40 kΩ
ノンクリップ最大入力レベル、TRS コネクタ	+21 dBu
出力レベル、TRS (公称 / 最大)	+4 dBu / +21 dBu
出力インピーダンス、TRS (アンバランス/バランス)	50 Ω / 50 Ω
電話の出力インピーダンス / 最大出力レベル	40 Ω / +21 dBu (ステレオ)
残留ノイズレベル、1~16 XLR コネクタ、ユニティゲイン	-85 dBu 22 Hz~22 kHz、重み付けなし
残留ノイズレベル、1~16 XLR コネクタ、ミュート	-88 dBu 22 Hz~22 kHz、重み付けなし
残留ノイズレベル、TRS、XLR コネクタの監視	-83 dBu 22 Hz~22 kHz、重み付けなし

DN32-ライブ USB インターフェース	
USB 2.0 高速、タイプ B (オーディオ / MIDIインターフェース)	1
USB 入力 / 出力チャンネル、デュプレックス	32、16、8、2
Windows DAW アプリケーション (ASIO、WASAPI、およびWDMオーディオデバイスインターフェイス)	Win 7 32/64 ビット、Win10 32 / 64 ビット
Mac OSX DAW アプリケーション (Intel CPU のみ、PPCサポートなし、CoreAudio)	Mac OSX 10.6.8 **, 10.7.5、10.8、10.9、10.10、10.11、10.12
DN32-LIVESD カードインターフェース	
SD カードスロット、SD / SDHC	2
SD / SDHC 対応のファイルシステム	FAT32
SD / SDHC カード容量、各スロット	1-32 GB
停電保護用バッテリー (オプション)	CR123A リチウム電池
SD カードの入力 / 出力チャンネル	32、16、8
サンプルレート (コンソールクロック)	44.1 kHz / 48 kHz
サンプルの単語の長さ	32 ビットPCM
ファイル形式 (非圧縮マルチチャンネル)	WAV 8、16 または 32 チャンネル
最大記録時間 (32 ch、44.1 kHz、2 つの 32 GB SDHC メディアで 32 ビット)	200 分
典型的なパフォーマンスの録音または再生	クラス 10 メディアでは 32 チャンネル、クラス 6 メディアでは 8 または 16 チャンネル
表示	
メインスクリーン	5" TFT LCD、800 x 480 解像度、262k 色
チャンネル液晶画面	RGB カラーバックライト付き 128 x 64 LCD
メインメーター	18 セグメント (クリップまで -45 dB)
力	
スイッチモード電源	オートレンジ 100-240VAC (50/60 Hz) ±10%
消費電力	70 W
物理的	
標準動作温度範囲	5°C– 40°C (41°F–104°F)
寸法	478 x 617 x 208 mm (18.8 x 24.3 x 8.2")
重量	14.3 kg (31.5 ポンド)

** OS X 10.6.8 コアオーディオは最大 16 x 16 チャンネルオーディオをサポートします

警告

- バッテリーを摂取しないでください、化学火傷の危険
- この製品には、コイン/ボタン電池が含まれています。コイン/ボタン電池を飲み込むと、わずか2時間で重度の火傷を負い、死亡する可能性があります。
- 新品および使用済みの電池は子供から遠ざけてください。
- バッテリーコンパートメントがしっかりと閉まらない場合は、製品の使用を中止し、子供から遠ざけてください。
- 電池を飲み込んだり、体内に入れたりしたと思われる場合は、直ちに医師の診察を受けてください。
- バッテリーを間違ったタイプに交換すると、セーフガードが無効になる可能性があります。同じまたは同等のタイプとのみ交換してください!
- 爆発または可燃性の液体またはガスの漏れを引き起こす可能性のある非常に高温の周囲環境にバッテリーを放置する。そして
- 非常に低い空気圧にさらされたバッテリーは、爆発または可燃性の液体またはガスの漏れを引き起こす可能性があります。
- バッテリー廃棄の環境的側面に注意を払う必要があります。

その他の重要な情報

JP その他の重要な情報

- 1. ヒューズの格納部 / 電圧の選択:**
ユニットをパワーソケットに接続する前に、各モデルに対応した正しい主電源を使用していることを確認してください。ユニットによっては、230V と 120V の 2 つの違うポジションを切り替えて使う、ヒューズの格納部を備えているものがあります。正しくない値のヒューズは、絶対に適切な値のヒューズに交換されている必要があります。
- 2. 故障:** Music Tribe ディーラーがお客様のお近くにはないときは、musictribe.com の “Support” 内に列記されている、お客様の国の Music Tribe ディストリビューターにコンタクトすることができます。お客様の国がリストにない場合は、同じ musictribe.com の “Support” 内にある “Online Support” でお客様の問題が処理できないか、チェックしてみてください。あるいは、商品を返送する前に、musictribe.com で、オンラインの保証請求を要請してください。
- 3. 電源接続:** 電源ソケットに電源コードを接続する前に、本製品に適切な電圧を使用していることをご確認ください。不具合が発生したヒューズは必ず電圧および電流、種類が同じヒューズに交換する必要があります。

